

# 天心の思い描いたもの

ほかしの彼方へ

■ 1 ■

色づく葉の大半を落く。こうした背景のた  
とした雑木林の木々めに、この絵の世界は  
は、その幹をあらわに一種、幻想的な空間の  
見せている。そのあら 広がりを感じさせる。

わな幹を、菱田春草は 東京美術学校からの  
一本一本の個性までも 春草の師、岡倉天心  
示すかのように綿密に は、もとより画家では  
描写する。よく見ると、 ないから細かな技術を  
その幹の描写には「線 教えることはなかった  
が用いられていない。 が、常に彼らに課題を

一方、木々の下に敷 与え、自分自身で考え  
き詰められた落葉はや させていた。その課題  
はり正確な描写なが の一つが「空気」を描  
ら、こちらには輪郭や くとどうとであり、

葉脈に「線」が見え  
る。そして、幹も落葉  
も画面の奥にいくに従

い彩度を落とすし、霧に 春草は親友の横山大観  
包まれるように背景の とともに、線を用い  
空白の中に消えて行 ず、色彩をほかしてい

## 菱田春草「落葉」



菱田春草「落葉」(右隻) =  
1909年、紙本・彩色・六曲一  
双屏風、福井県立美術館蔵

などという批判を浴び  
た。そうした批判から  
約10年後に描かれたこ  
の「落葉」では、線を  
用いず色を重ねても、  
木々の幹はその存在感  
をはっきりと主張して  
いる。

そして、それらが存  
在する場に漂うこの不  
思議な空間の広がりこ  
そ、天心の課題に対す  
る、春草のこの時の回  
答であったに違いな  
い。

(県近代美術館企画課  
長 小泉淳一)

## 幻想的な空間の広がり

く方法でこれに応えよ  
どこか暗く濁り、不明  
瞭なものとなってしま

しかし、その描写は ったため、「朦朧派」

「天心の思い描いた  
ものーほかしの彼方  
へ」は21日まで、県近  
代美術館で開催。問い  
合わせは同館 ☎029  
(243) 5111。